

## グアテマラ内政・外交(2008年3月)

平成20年4月  
在グアテマラ日本国大使館

3月の当国政情(内政・外交)を次のとおり報告する。

### 1. 概要

(1) 治安問題に効果的な対策が講じられない中、首都圏での一般犯罪に加えて、サカパ県で発生した麻薬密売組織間の激しい抗争やイサバル県で発生した外国人観光客(ベルギー人)4名の誘拐事件について国内外からは懸念が表明され、また、米務省の国際的麻薬取引対策に関する年次報告書や、国連人権高等弁務官事務所(UNHCHR)より公表されたグアテマラの人権状況に関する年次報告書の内容も、深刻な治安の現状を裏付けるものとなった。このような状況下、死刑囚に適用する恩赦の発令権限を大統領に再度付与する修正恩赦法案(国会可決済み)について、コロン大統領は、凶悪犯罪に対し厳罰を求める多数の国内世論に反し、その署名を拒否した。

(2) 外交面では、ロダス外相が、4月のコロン大統領の米国訪問およびブラジル訪問に先駆けて両国を訪問し、それぞれ外相会談を行った。ベリーズとの領土問題については、コロン政権として、前政権の立場を踏襲し、問題解決に向けたICJ付託に賛成の方針が明らかにされた。

### 2. 内政

#### (1) コロン大統領に対するインタビュー

新政権発足から2ヶ月が経過したのを受けて、18日付当地紙プレンサ・リブレは、コロン大統領のインタビュー記事を掲載(タイトル:「改革には時間を要する」)。大統領は、治安問題について、殺人事件の発生件数が政権発足当初の17件/日から12.5件/日にまで減少していることに言及しつつ、近く事態の改善を実感できるはずであると述べ、また、新政権の取り組みの中でエスパーダ副大統領の言動の方が目立っているのではとの指摘に対しては、改めて役割分担をしつつあるとしながらも、同副大統領が出過ぎているとは思っていないと述べ、適切に連携が図られている旨強調した。

#### (2) 治安関係

##### (イ) 国際麻薬密売組織間の抗争

25日、東部サカパ県の保養地リオ・オンド付近で、麻薬密売組織間の抗争が発生し、激しい銃撃戦および手榴弾の爆発により構成員9名が死亡する事件が発生。当国の主要な麻薬密売組織は、サカパ県その他、フティアパ県、ハラパ県、チキムラ県、エルプログレス県に拠点を置きつつ、メキシコの巨大麻薬カルテルである「ゴルフ」や「シナロア」と密接な取引関係を有している。今回の事

件も両国の組織が複雑に絡み合った結果、発生したと見られている。

(ロ) 国際的麻薬取引対策に関する米国国務省年次報告書の公表

29日、米国国務省は、国際的麻薬取引対策に関する年次報告 2008 年度版を発表。グアテマラについては、麻薬流通ルート(南米産の麻薬が北米に至るまでの流通ルート)上の重要な通過ポイントとなっている、また、ケシ栽培が主要生産国レベルに及ばないものの近年増加の傾向にあるとして懸念が示された。他方、2007 年のグアテマラ政府の取り組みについては、資金不足や脆弱な組織体制にも関わらず、不良警官の一斉解雇や「グアテマラにおける無処罰問題対策委員会(CICIG)」立ち上げを推進したこと等が一定の評価を得た。

(ハ) 米国からの麻薬対策用ヘリコプターの貸与

24日、米国政府は、麻薬対策を目的に4機の多用途ヘリコプター(Huey II)を2年間の予定でグアテマラに貸与した。軍の特殊部隊の緊急輸送等に使用される見込み。

(ニ) 公共バスの運行に対する取締りの強化

2月、首都から地方に向かう幹線道路上で乗客を満載したバスが峡谷に転落し、53人以上が死亡した事故を受け、3月、国家文民警察(PNC)は、公共バスの集中取締りを実施。当国でのバスの運行状況については、整備不良、無保険運行、大幅な定員超過、運転手の酒酔い等、問題が多い。グアテマラ保険協会(AGIS)によれば、全国で登録されている約 25,200 台のバスのうち、保険に加入しているのは僅か約 8,000 台(32%)。3日には、150 台以上のバスが検挙された。

(ホ) 外国人観光客(ベルギー人)誘拐事件

14日、イサバル県リビングストーン市のリオ・ドウルセにおいてベルギー人観光客4名とグアテマラ人ガイド2名が誘拐される事件が発生。犯行グループは、2月に逮捕された土地詐欺集団の首領であるラミーロ・チョック容疑者の解放を要求する農民約50名であった。翌 15 日午前、政府は、国家文民警察および国軍兵士合わせて約100名を動員し、一斉捜索を行った結果、アジトの民家を発見し犯行グループを包囲、人権擁護官事務所職員の説得に犯行グループが応じ、同日夜、人質6名は解放された。

(ヘ) サマータイム導入の見送り

11日、コロン大統領は4月1日より予定されていたサマータイム実施の中止を宣言。政府は、4月から9月までの昼間の時間を有効に利用するサマータイムの実施は、照明等の電力消費を抑制し発電用重油にして約 300 万ガロン(約7億円相当)を節約できると試算し、準備を進めてきたが、国内各方面より「早朝、暗いうちからの行動は照明の点灯を伴い、電力の節約には結び付かない」との意見や、「深刻な治安状況のもと、通勤等で早朝より移動しなければならない市民を危険にさらす」との批判の声が上がっていた。過去には 2006 年にサマータイムが導入されている。

### (3) 人権関係

#### (イ) 修正恩赦法案に対するコロン大統領の署名拒否

死刑囚に適用する恩赦の発令権限を大統領に再度付与する修正恩赦法案が2月に国会で可決された後、発効に必要な大統領の署名がペンディングとなっていた問題に関し、14日、コロン大統領は、凶悪犯罪に厳罰を求める声が強いことは認識していると前置きしつつも、死刑復活は世界的な死刑廃止の傾向に逆行する、また、同修正法案は、現在停止状態にある死刑執行に再開の見通しをつけるものであり、国家が保障すべき国民の基本的な人権(生命の尊重)を侵す点で違憲であるとの見解を示した。

#### (ロ) グアテマラの人権状況に関する UNHCHR 報告書の公表

5日、国連人権高等弁務官事務所(UNHCHR)は2007年度版年次報告を発表。同報告書は、捜査当局や司法システムが十分に機能せず、また、国内の社会・経済的格差は更なる貧困や差別を生み出しているとして現状につき警鐘を鳴らしている。今後の課題として、国家文民警察(PNC)の綱紀粛正・構造改革、及び「グアテマラにおける無処罰問題対策委員会(CICIG)」を含む捜査当局間の連携により治安対策を強化することの他、司法システムの強化や国会における各種法整備の推進により差別や暴力に対処すること、更には、徴税率見直しを含む税制改革により貧困削減に持続的に取り組み人権状況を改善することを求めている。

### (4) 保健医療分野の取り組み

当国の公立病院等は予算不足などから、医師不足や機材・医薬品の不備や不足が従前から問題となっているが、4日、政府は、公共医療サービスの改善を目的に全国23ヶ所の公立病院及び多数の同診療所の診療時間を7:00-18:00に延長し(従来は7:00-14:00)、また、勤務医及び救急救命士をあわせて1,000人増員する計画を発表した。月末までに全ての病院で診療時間の改正が終了した。

### (5) 国会関係:野党GANAの再編成

前政権時代の与党で、1月のコロン政権発足に際して最大野党となった国民大連合(GANA)では、2月、ピラ幹事長ならび13人の国会議員が、党内派閥間の意見の不一致を理由に離党したことで、国会での議席を37から24に大幅に減らし、党の立て直しが急務となっていたが、4日、デベット同党国対委員長は、新幹事長としてアルバロ・アギラル元農牧大臣が就任することが決定した旨明らかにした。アギラル新幹事長は昨年の大統領選挙党内予備選(結局未実施)を前にGANAの大統領候補となることを目指していたが、交通事故で重傷を負ったため出馬を断念、一時期療養を強いられていた。

### (6) ガルシア経済大臣の辞任

17日、ガルシア経済大臣は、健康上の問題を理由にコロン大統領に辞任を申し出、同日、コロン大統領もこれを了承した。コロン政権発足後、初めての閣僚交替となった。ロブレス大統領府広報長官は、後任人事について、コロン大統領が現経済次官(3名)を含め幅広く人選を進め、聖週間の連休明けにも新大臣の任命を行う意向であることを明らかにした。なお、当面はベラスケス投資・競争力担当次官が大臣職を代行する。

## 2. 外交

### (1) ロダス外相の米国訪問

ロダス外相は、4月末のコロン大統領の米国訪問に先立ち、7日、同国を訪問。ライス国務長官との会談では二国間関係、グアテマラの治安問題、地域統合、米国におけるグアテマラ人移民問題等について意見交換を行った。移民問題については、「ロ」外相より、米国に滞在するグアテマラ人不法移民のおかれる現状につき、当国政府として懸念が改めて表明されたのに対して、「ラ」長官は、ブッシュ政権としては公正で包括的な移民法の改正に努めたが、右は引き続き次期政権が同国議会とともに取り組んでいくべき課題である旨述べた。

### (2) ロダス外相のブラジル訪問

14日、ロダス外相はブラジルを公式訪問。アモリン伯外相と会談を行い、エタノール実用化プログラム策定にかかるブラジルの対グアテマラ技術協力、コロン大統領のブラジル訪問他の二国間関係、ブラジルと中米統合機構(SICA)加盟国との間の協力、国連を始めとする国際場裡における協力等につき意見交換を行った。国連関係では、ブラジルの安保理非常任理事国選挙(任期:2010-2011年)立候補とグアテマラの安保理非常任理事国選挙(任期:2012-2013年)立候補について双方より相互支持が表明された。

### (3) ベリーズとの領土問題

ベリーズとの間で懸案となっている領土問題については、2007年11月、インスルサ米州機構(OAS)事務総長よりグアテマラ、ベリーズの両国に対して、国際司法裁判所(ICJ)への本件付託が勧告され、その後、両国とも新政権が発足したため本件の行方が注目されていたところであるが、10日、ロダス外相は、「2007年11月のOAS事務総長勧告に基づいて解決を目指すとの方針に変更はない」と述べ、コロン新政権がベルシェ前政権の方針を踏襲し、本件を国民投票にかけた後、ICJに付託する意向である旨明らかにした。

### (4) グアテマラ人に対するメキシコ入管法の改正

陸路でメキシコに入国するグアテマラ人に対するメキシコ入管法の改正が、メキシコの12日付官報への掲載を経て発効した。メキシコには、現在も内戦期に避難してきたグアテマラ人が多く残るほか、毎年多数のグアテマラ人が違法に同国に渡り、主に農業労働者として就労して不安定な立場に置かれている現状がある。メキシコにおける今次法改正は、グアテマラ人によるメキシコ短期

訪問や就労(チアパス、キンタナ・ロー、タバスコ、カンペチェの5州に限定)に対する規制について、緩和を含む見直しをはかり、出入管のコントロールを改善させる目的があると見られている。

(5) 当国外交団によるコロン大統領への年頭挨拶

10日、当国駐在外交団、国際機関代表、領事団は大統領に対する毎年恒例の年頭表敬訪問を行った(サンドラ大統領夫人、エスパルダ副大統領、ロダス外務大臣同席)。外交団長(ローマ法王庁大使)より、貧困撲滅、治安改善等の新政権の重要課題について協力の意向が示され、併せて新政権が右に鋭意取り組むよう期待が表明されたのに対し、コロン大統領は、国際社会からの当国に対するこれまでの支援に謝意を表しつつ、現政権が改革を行っていくにあたり、継続的な協力が要請された。